8月4日は世界 NTM デー(World NTM Awareness Day): 増えている肺非結核性抗酸菌症

毎年8月4日は「世界NTMデー(World NTM Awareness Day)」で、非結核性抗酸菌(non-tuberculous mycobacteria/NTM) 症について多くの方に知っていただき、早期発見のための検査や、NTM 症の研究の重要性の啓発が目的です。

NTM 症の多くは肺 NTM 症で、浴室や土壌などの生活環境中で NTM を吸入して発症し、多くは慢性的な経過を辿りますが、菌種や病状により急速に悪化して時に死に至ることもある疾患です。200 種類以上の NTM の菌種のうち、本邦の肺 NTM 症の約 8 割が Mycobacterium avium/M. intracellulare によるもので、この 2 菌種による肺 NTM 症はマック(M. avium complex/MAC)症と呼ばれ、50~60歳代以上の中高年女性でやせ型の方に好発します。肺 NTM 症の死亡者数は増加傾向で、本邦の全国人口動態調査では、肺 NTM 症で亡くなった方は 2012 年に 530(男性 215、女性 315)名だったのに対し、2022 年には 1,158(男性 407、女性 751)名とこの 10 年で 2 倍以上に増えています。

この患者数が増えてきている肺 NTM 症に対して、日本結核・非結核性抗酸菌症学会と日本呼吸器学会が共同で、2023 年 6 月に「成人肺非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解―2023 年改訂」を、また2024 年 11 月に「肺非結核性抗酸菌症診断に関する指針―2024 年改訂」を発表しました。2023 年の主な改訂点は、① これまで週 7 日間の連日内服のみだった肺 MAC 症治療に対し、週 3 回の間欠内服の選択肢が提案された、② MAC 症の難治例に対して注射剤だけでなくアミカシン硫酸塩の吸入薬の使用が追加された、③ しばしば治療に難渋する M. abscessus による肺アブセッサス症についても治療の考え方が提示されたことなどが挙げられます。2024 年の改訂指針では、日本独自の暫定的診断基準が示され、① 肺 MAC 症の初回診断時に限り、臨床的基準を満たし、1 回の喀痰検体で培養陽性かつ抗GPL-core IgA 抗体(抗 MAC 抗体)陽性、② 臨床的基準を満たし、胃液検体で培養陽性の場合、喀痰検体で1 回以上の培養陽性、が暫定的診断基準として追加されました。このような診断プロセスの簡略

化により、より早期の診断・治療につながることが期待されます。

患者数が年々増加し、実地医家での対応も増えている肺 NTM 症ですが、適切な経過観察の判断や診断・治療の適時介入などは非専門医ではわかりづらい側面も多く、また診断・治療方針が年々改訂されるなど、より早期の専門施設での診療が望ましい側面も増えてきており、新規治療薬も含めたより有効な治療法の一般臨床での適切な使用などの肺 NTM 症診療の進歩が期待されています。

日本結核・非結核性抗酸菌症学会 常務理事 矢寺 和博

